



和瓦を葺く屋根職人



小峰城清水門復元工事 かわら版 第5号



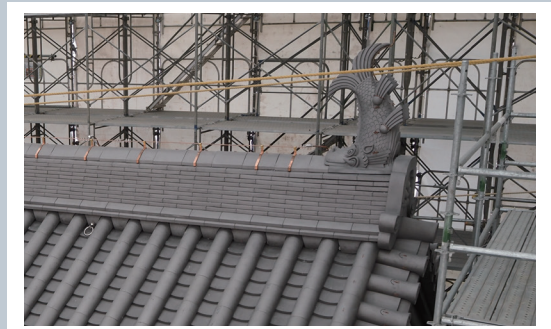
野地板上に仮置きされた平瓦（左）と葺かれた屋根（右）

～ 屋根瓦が葺かれました ～

屋根を支える柱や梁を組んだ小屋組みが完成し、屋根に野地^{のじ}板という板が全面に敷かれて、良質の粘土を焼いた瓦が葺かれました。清水門のような本格的な伝統建築では、丸瓦と平瓦の2つの形の和瓦を交互に葺いて、凹凸のある重厚な屋根の見え方にする「本瓦葺き」とすることが多いようです。

～ 屋根の頂上を飾る役瓦～

瓦葺き屋根の一番上の「棟」では、平瓦を何段にも積み上げた後、最後に熨斗瓦^{のしがわら}をのせて、厚みのある頂部をつくりあげます。その棟の両側面には、「鬼瓦」が入り、さらにその上に瓦の鯨^{しゃちほこ}といった特別な「役瓦」が飾られます。シャチは魚の形をした空想の縁起物の獣です。



屋根の頂上を飾る鬼瓦と鯨



「小峰城清水門復元工事かわら版 第5号」2026年7月発行

※本紙は白河市と連携し、東北工業大学 建築史研究室が制作しています。

〔工事・工程の問合せ〕白河市建設部文化財課 史跡整備係 tel 0248-22-1111 (代) 内線 2230

〔本紙に関する問合せ〕東北工業大学 建築学部 建築史研究室 (中村研) tel 022-305-3611